

神領古墳群で

かぶと

はにわ

青の形象埴輪が出土

鹿児島県内初、全国的にも希少



▲神領古墳群から出土した眉庇付青形埴輪

8月17日から9月9日にかけて、鹿児島大学総合研究博物館橋本達也助教授を中心とする調査チームによって神領古墳群の10号墳の調査が行われました。

①横瀬古墳などの巨大古墳に次ぐ中型古墳だった。

現在は、全長約35mの古墳ですが、もともとは全長60メートル級の前方後円墳であり、横瀬古墳などの巨大古墳に埋葬された人物に次ぐ有力者の墓であることが分かりました。

②築造時期は横瀬古墳とほぼ同じ

出土した土器や埴輪から横瀬古墳とほぼ同じ5世紀中葉に築造されたことが分かりました。

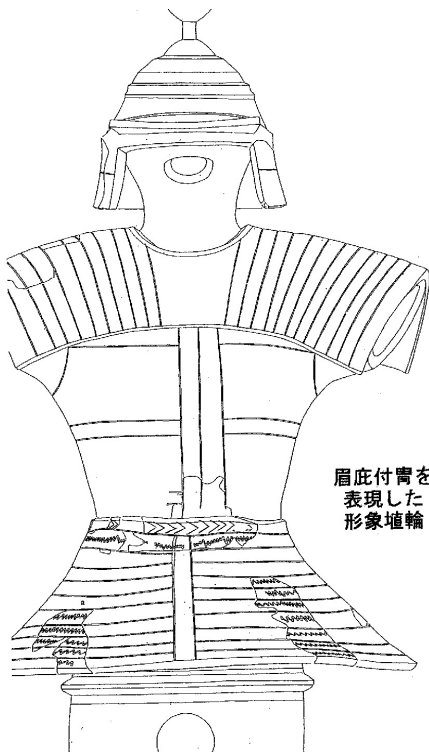
埋葬者は、横瀬古墳に埋葬されている人物と緊密な関係にあったのではないかと考えられます。

③眉庇付青形埴輪の出土

全国でも10例程度しかない珍しい埴輪が出土しました。5世紀代に使われた青をモデルにしてつくられた埴輪で、鹿児島県では初の事例です。

④県内で横瀬古墳に次ぐ2例目の埴輪出土

県内では珍しく、古墳の調査に伴って埴輪が出土しました。古墳に埴輪が伴うのは近畿を中心とした文化ですが、横瀬古墳とともに広域交流に関与した有力者の可能性があります。



眉庇付青を表現した形象埴輪

埴輪のモデルとなった青のイラスト

神領古墳群は、横瀬古墳に代表される巨大古墳がなぜこの地域に造られたのかを知る手がかりを握っていると考えられます。今後より一層の実態解明が期待される遺跡です。

⑤埋葬施設は軽石でできた竪穴式石室
埋葬施設は荒らされて、ほとんど原型はありませんでしたが、軽石を使って石室をつくっていた形跡がありました。



▲橋本助教授らによる調査の様子